

## 中学部第1学年 英語科学習指導案

上海日本人学校浦東校

指導者 宮崎 遼

1 日時：2020年12月〇日

2 学級：中学部1年〇組

### 3 学級観

1年〇組は、素直で思いやりのある生徒が多く、普段からクラスや級友のために積極的に意見を発言したり、行動したりすることができる学級である。授業では学び合いを普段から実践しているため、グループで話し合ったり、発表したりすることは得意である。学習面では少し不安な生徒もいるが、先生の話をよく聞いて一生懸命授業に取り組む学習規律が整っている学級である。

4 単元名「Unit9 Think Globally, Act Locally」(使用教科書；NEW HORIZON1 東京書籍)

### 5 単元について

#### (1) 単元観

本単元では、メグが目標としている人についてクラスでスピーチをする場面と、海斗とメグが国際交流イベントに参加して世界的問題についてのプレゼンテーションを聞く場面が教材である。英語を通して世界で起こっている問題について関心をもつ機会としたい。言語材料は不定詞の名詞的用法〈to+動詞の原形〉とlookである。want to…は小学校及びUnit3で既習であるので、それらを連想させながら指導していきたい。

#### (2) 生徒観

生徒の多くは友達と英語でコミュニケーションを取る活動に意欲的に取り組んでいるが、人前で英語を話したり発表したりすることには苦手意識を持っている。これまでにプレゼンテーションは、2学期に2回実施し、今回は3回目となる。少しずつではあるが、英語を使って人前で発表することに慣れつつある。SDGsについては小学校6年生の時に学習したこともあり、興味関心がある生徒が多く、どのグループも意欲的に取り組んでいるのが特徴である。

#### (3) 指導観

want to…は小学校でもよく使われる表現であり、生徒にとっては馴染みがあり定着も早いと言える。ここでは不定詞の名詞的用法〈to+動詞の原形〉でとらえ直し、応用できるように練習を重ねたい。2年生でも不定詞を学ぶので細かい解説や用法の区別等に終始しないように注意する。Unit ActivityではSDGsのプレゼンテーションをグループで行うことで、世界に視野を広げさせ、英語学習の動機づけになる授業を展開していきたい。

## 6 単元の目標及び単元における深い学び

### (1) 単元目標

したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。

### (2) 単元における深い学び

#### 1. 聞き手を意識した発表

プレゼンテーションはただ人前で発表するのではなく、聞いている人を意識して発表することが大切である。アイコンタクト、声の大きさ、話すスピードなどを意識させ、質問をしながら聞き手を巻き込んで発表をする力を身につけさせたい。

・実現するための工夫

- ① 聞いている人にたずねる質問をグループで事前に考え原稿に入れさせる。
- ② 発表評価シートを用いて聞き手を意識した発表になっているかグループ内、グループ同士で練習させる。

#### 2. プレゼン発表後の質問・意見交換

SDGsの問題について考えを深めるためには、まずは発表内容を正しく理解する必要がある。そして質問をしたり意見を交換したりする必要がある。発表には中1のレベルを超えた難しい単語が出てくるので、こうした単語が理解できるようにする工夫を行いたい。また発表後のQ&Aのやり方を工夫することでSDGsについてより深く考えさせたい。

・実現するための工夫

- ① グループで他グループの原稿を読み、発表者にたずねる質問を事前に考えさせる。またロイロノートを活用し、回答を共有することで、発表までに自分のグループへの質問の回答も考えさせる。
- ② 難しい単語は、ロイロノートの「専門用語共有」に入れさせる。回答が共有されているので事前に意味を確認させ、発表内容がより理解できるようにする。
- ③ 「専門用語共有」に入った単語は、発表に向けて先生役の生徒に毎回授業の初めに発音練習、意味の確認を行わせる。
- ④ 質問の仕方、回答の仕方を事前に教え、マナーを守ったQ&Aにする。

## 7 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	[知識] 不定詞(名詞的用法)や〈look+形容詞〉を用いた文の意味を理解している。 [技能] 不定詞(名詞的用法)やlook+形容詞〉を用いた文の理解をもとに、行きたい国とそこでしたいことについて話されるスピーチや対話を聞き取る技術を身につけている。	相手の将来の夢や行きたい国について知るために、したいことやしようとしていること、人やものの様子などについて話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	相手の将来の夢や行きたい国について知るために、したいことやしようとしていること、人やものの様子などについて話されるスピーチや対話の概要を捉えようとしている。

読むこと	<p>[知識] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>[技能] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の理解をもとに、したいことやしようとしていること、人やものの様子について書かれたスピーチを読み取る技能を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題やその解決策を知るために、したいことやしようとしていること、人やものの様子などについて書かれた文章の概要を捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題やその解決策を知るために、したいことやしようとしていること、人やものの様子などについて書かれた文章の概要を捉えようとしている。</li> </ul>
話すこと（やりとり）	<p>[知識] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の理解をもとに、行きたい国とそこでしたいことについてたずねたり答えたりする技能を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国とそこでしたいことを伝え合うために、お互いの考えについて、簡単な語句や文を用いて即興でたずねたり答えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国とそこでしたいことを伝え合うために、お互いの考えについて、簡単な語句や文を用いて即興でたずねたり答えようとしている。</li> </ul>
話すこと（発表）	<p>[知識] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の理解をもとに、したいことやしようとしていること、人やものの様子について話す技能を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題を解決するために、したいことやする必要のあることについて、聞き手を意識した発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題を解決するために、したいことやする必要のあることについて、グループで協力しながら、聞き手を意識した発表しようとしている。</li> </ul>
書くこと	<p>[知識] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の理解をもとに、したいことやしようとしていること、人やものの様子について書く技能を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題を解決するために、したいことやする必要のあることについて、聞き手を意識して、自分の思いを書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や地域の問題を解決するために、したいことやする必要のあることについて、グループで情報を集め、協力しながら、自分の思いを書こうとしている。</li> </ul>

参考資料「New Horizon1 教師用指導書」東京書籍 該当箇所「単元について」と「単元の評価規準」

## 8 単元計画

時間	○学習内容/学習活動	・評価方法【評価規準】
第1時 Unit9 Story①	○教科書の内容把握とキーセンテンスの理解	・ワークシート ・振り返りシート 【聞知技、聞思判表、聞態度】
第2時 Unit9 Story②	○教科書の内容把握とキーセンテンスの理解	・ワークシート ・振り返りシート 【や知技、や思判表、や態度】
第3時 Unit9 Story③	○教科書の内容把握とキーセンテンスの理解	・ワークシート ・振り返りシート 【読知技、読思判表、読態度】
第4時 Unit Activity SDGs project	○SDGsの17の目標について学び、自分が発表したい興味のある目標を選択する。 ○プレゼンの目標、やり方を理解する。	
第5時 Unit Activity SDGs project	○自分のグループと発表までのスケジュールを確認する。 ○選んだ世界的または地域的な課題の「原因」「被害」「解決策」をグループで調べ考える。	
第6時 Unit Activity SDGs project	○発表を「あいさつ・自己紹介」「原因」「被害」「解決策」「メッセージ」の5つに分け、自分が担当する場所を決める。 ○自分の担当個所の原稿とスライドを作成する。	・原稿スライド (Draft) 【書知技、書思判表、書態度】
第7時 Unit Activity SDGs project	○自分の担当個所の原稿とスライドを完成させる。	・原稿スライド 【書知技、書思判表、書態度】
第8時 Unit Activity SDGs project	○グループで原稿とスライドを1つにまとめ、ミスがないかを確認する。 ○他のグループの原稿とスライドを読む。 ○質問するグループを決める。	
第9時 Unit Activity SDGs project	○他グループへの議論が深まる質問をグループで作成する。 ○プレゼンの発表の仕方を学ぶ。	・原稿スライド 【書知技、書思判表、書態度】
第10時 Unit Activity SDGs project	○個人で発表練習をする。 ○グループ内で発表評価シートを使って相互評価を行いながら発表練習をする。	・発表評価シート 【発知技、発思判表、発態度】
第11時 Unit Activity SDGs project	○グループで練習をする。 ○グループ同士で発表評価シートを使って相互評価を行いながら発表練習をする。(2グループとのみ)	・発表評価シート 【発知技、発思判表、発態度】
<b>第12時 本時</b> Unit Activity SDGs project	○聞き手を意識したプレゼンテーションを行う。 ○発表後のQ&AでSDGsについて考えを深める。 ○発表評価シートを使って相互評価を行う。	・発表評価シート ・振り返りシート 【発知技、発思判表、発態度】
第13時 Unit Activity SDGs project	○冬休みにSDGsの目標を達成するために実践したことをグループ内で紹介する。 ○発表に使ったポスター・資料をクラスに掲示し、他クラスの発表や実践を参観する。	・振り返りシート ・冬休みの宿題(実践紹介) 【書知技、書思判表、書態度】

## 9 本時の目標

SDGs の課題について考えを深め、世界や地域の問題を解決するために、したいことやする必要のあることについて、聞き手を意識しながらグループで発表することができる。

時間	学習内容/学習活動	・指導上の留意点 ☆評価方法【評価規準】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・本時の流れ</li> <li>・ウォームアップ（発表単語クイズ）</li> </ul> 先生役の生徒は、自分のグループに出てくる SDGs の専門用語を発音し、聞いているそれ以外の生徒は繰り返す。30 秒後、iPad を閉じ、覚えたかの確認を Q&A で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの先生が発表を見に来ることを伝え、発表の動機づけを行う。</li> <li>・ロイロノートの画面共有の機能を使う。</li> <li>・先生役の生徒を中心に主体的に取り組ませる。</li> </ul>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の注意点 (Volume, Speed, Gesture, Eye contact, Smile, Memorization, and Q&amp;A)</li> <li>・練習タイム（4分）</li> <li>・<u>班ごとの発表</u> 各グループ 6 分程度（合計 30 分以内） 発表の流れ 準備 30 秒→<u>発表（3分）</u>→Q&amp;A（2分）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>下線部分が深い学びにつながる活動</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントでスライドを作り、注意点をスクリーンに表示する。</li> <li>・発表の注意点を思い出すことができるようにキーとなる単語は、最初の文字のみ表示し、それ以外は隠す。</li> <li>・注意点を確認し、聞き手を意識して練習に取り組ませる。</li> <li>・発表は時間を計り、各グループ 6 分を超えないようにする。</li> <li>・質問とその回答は事前に考えさせる。</li> <li>・他に質問したいことがあれば、時間の許す限りさせる。</li> <li>・SDGs について深く考えることも目的なので、Q&amp;A は日本語でも可とする。</li> <li>・質問が出ない場合は、教員が質問をする。</li> </ul> ☆発表評価シート （教員の評価、生徒による相互評価） 【発知技、発思判表、発主態】
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人での振り返り</li> <li>・グループや全体で振り返りの共有（時間があれば）</li> </ul>	☆振り返りシート （ロイロノートで回答） 【発知技、発思判表、発主態】

## 10 授業の観点

- ・発表は聞き手を意識した発表になっているか。
- ・発表後の Q & A は SDGs の問題を深く考える手立てになっているか。

## 11 授業の振り返り

振り返りシートで自分のグループの発表を評価させた。グループ内またはグループ同士で発表評価シートを使って練習したことで、聞き手を意識した発表がグループでできたと感じた生徒はたくさんいることがわかった。単純には比較できないが、授業前に実施したアンケートの結果では、25%の生徒が「英語で話して表現することができる」という質問に対して「やや苦手」または「苦手」であると回答していたため、以下の結果を見ると生徒の意識に一定の変化があったと推測できる。グループで発表することを意識させることにより、練習の時から学び合いをしている場面が多く見受けられたので、苦手な生徒の意識に変化が見られ、こうした結果につながったのではないかと考える。他クラスでも同じ授業を行ったが、ほぼ同様の結果となった。

### 振り返りシートの結果

No	Presentation Skills	Very good	Good	OK	Not good
1	Volume	70%	30%	0%	0%
2	Speed	50%	50%	0%	0%
3	Gesture	20%	40%	30%	10%
4	Eye contact	40%	60%	0%	0%
5	Smile	40%	20%	40%	0%
6	Memorization	40%	50%	10%	0%
7	Q&A	100%	0%	0%	0%

また今回の発表では、発表中に発表者から聞き手へ、発表後に聞き手から発表者に質問をさせ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した。生徒の英語のレベルを考えると、SDGsの内容について即興で英語の質問をしたり、またその質問に答えたりすることは難しかったので、事前に質問とその答えを考えさせた。発表後のやり取りでは、事前に考えたものだけではなく、英語と日本語で活発に質問したり答えたりする様子も見られた。アンケートの結果でも「Q&A」の項目で全員が「Very good」という回答しているところを見ると、今回のQ&Aの活動が上手くいったことが推測される。

#### ・発表者から聞き手への質問

どのグループも発表中に聞いている人に2~4回程度質問をした。質問内容は事前にグループでどんなことを尋ねたらよいかを考えさせ、原稿の中に入れさせた。以下は実際に「海の豊かさを守ろう」のグループが発表中に聞いている人に尋ねた質問である。このグループでは生徒一人を指名して尋ねていたが、挙手をさせたり、時間を計り考えさせるような形で質問をするグループもあった。

～省略～Today, we are going to talk about sea problems. **Do you know any sea problems, ~さん?** Look at this picture. **What is this, ~さん?** Yes, this is plastic garbage. ~省略～ We throw away about twelve million seven hundred thousand tons of plastic garbage a year. That is equivalent to forty-two thousand jambo jet aircrafts. **It's a lot, isn't it ~さん?** ~省略～**Do you want to do something to reduce plastic garbage, ~さん?** In order to protect our beautiful sea and sea creatures, please cooperate in reducing plastic garbage. Thank you for listening.

#### ・発表後の Q&A のやりとり

今回のプレゼンテーションでは、生徒に事前に各グループの原稿とスライドに目を通させ、他グループへの質問をグループで考えさせた。質問を考えさせる際には、SDGs の学習がより深まる質問を考えるように意識させた。具体的には「なぜその問題はなくならないのか」「提案している解決策で本当に解決につながるのか」というような点を意識させた。以下は実際に発表後に出た質問の一部である。

Q1 When we buy some drinks in the store, there are many drinks in the plastic bottles, like juice, tea, and so on. When we want to buy these drinks, what should we do?

Q2 You said we should use electric cars instead of gas-powered cars. But I think making electricity also burn fossil fuels and cause air pollution. What do you think about this contradiction?

Q3 What was the reason the white police sat on black man's neck?

ただ発表するだけではなく、発表中、発表後にこうしたやり取りを入れたことで、生徒が SDGs の問題について深く考える場面が多く見られた。実際に振り返りシートのコメント欄からも生徒が SDGs の問題について深く考えたことが窺えた。以下は生徒が実際に書いたコメントである。

#### 振り返りシートの生徒の記述（一部抜粋）

- ・海に関する発表でプラスチックの量がジャンボジェット 4 万 2 千台分とか量が半端なくてびっくりした。見つかっていない分も結構あると思うので、もっと多いのかもしれない。またプラスチックを食べてしまった魚介類を私たちが食べていると考えたら、本当に問題を解決しなくていけないと改めて実感した。
- ・SDGs はこれからの私たちの生活にも関わることなのでゴミの削減、黒人の差別、人や国の不平等、気候・エネルギーについて協力できることがもっとたくさんあると思うので、できることからやっていきたいです。
- ・世界にはいろいろな問題があるけれども発表を聞いて私も小さなことからやっていきたいと思いました。
- ・人や地球を守るためには、みんなに呼びかけをすると同時に、自分も地球をよりよくする行動を実践しなくてはならないと思った。時間や財産に少しでも余裕がある私たちが他の人を守っていかなくてはならないと思った。
- ・どのチームもスライドとジェスチャーがあって見えて飽きないプレゼンだったと思う。また原稿も暗記していてつかえることも少なく聴きやすかったので、練習をすることは大事なんだと改めて思えた。

## 12 発表から実践へ

今回の SDGs のプレゼンテーションは冬休み前最後の授業で実施した。発表させるだけではなく、実際に行動させることも大切なので、冬休みの宿題として SDGs の目標を達成するために実践したことをスライド 1 枚にまとめさせ、ロイロノートで提出させた。また冬休み明けの授業で、取り組んだことをクラスの中でお互いに紹介し合う活動まで行った。SDGs の発表に使用した資料は、各クラスに掲示して他クラスの生徒がどんな発表をしたのか参観できるようにした。

## 実践報告会 記録

期日：	202〇年	12月	〇日	〇曜日
学年・教科等：	中学部 1年			
単元・主題名：	「Unit9 Think Globally, Act Locally」(使用教科書；NEW HORIZON1 東京書籍)			
授業者：	中学部	1年	〇組	授業者( 宮崎 遼 )
場所：	中学部	1年	〇組	教室
実践報告会：	司会者( 〇〇 〇〇 )		記録者( 〇〇 〇〇 )	
会順( ①自評 ②質疑応答 ③グループ討議 )	<p>&lt;自評&gt;</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、2つの点を主に取り組んだ。1つ目は、発表は聞き手を意識したものにする事、2つ目は発表後に内容が深まる Q&amp;A を行うことである。これを実現するためには、どうしても既習事項だけでは難しかったので、ロイロノートを使い計画的に準備を進める必要があった。事前に準備をしっかりと行い、ICT を上手く使うことで、教科書のレベルや教科の枠を越えた「主体的・対話的で深い学び」が実現できることがわかった。生徒の授業中の様子、発言、振り返りシートのコメントを見ると、今回の学習目標は概ね達成することができたと考える。課題としては、原稿作成の際に翻訳アプリの使用を許可したことで主体的に取り組むなど良い面も見られたが、生徒がアプリに頼ってしまう部分もあった。また発表の分担を決めたことで、グループとしては良い発表になったが、一人ひとりが話す時間は少し少なくなってしまったかもしれない。</p>			
<質疑応答>				
<グループ協議>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォームアップの単語クイズを生徒に任せている点に工夫が見られた。</li> <li>・発表者が一方的に発表・発信するのではなく、聞き手とのやり取りを発表の一部に取り入れている点よかった。</li> <li>・質疑応答はオールイングリッシュにこだわらず「日本語でも OK」にして、発表者と聞き手のやり取り」をしやすい雰囲気づくりの一端になっていた。</li> <li>・発表練習の際、互いの発表方法についてアドバイスし合う活動で、「良い発表をするにはどうすべきか」という観点で学びの深まりを感じた。</li> <li>・質問タイムで、「どういう意味」「なんて言ったの?」という疑問に対し、教え合いをしている様子から深い学びの姿を感じた。</li> <li>・SDG s (総合的な学習等で扱う内容) と英語を教科横断的に扱った単元構成をすることにより、教科同士の「つながり」を持たせている。 →学びの共有化が図られている姿が深い学びそのものだと感じた。</li> <li>・発言終わりの拍手や他グループへの肯定的な見方がなされていたので、普段の授業から授業づくり、雰囲気作りがしっかり配慮されているのだと感じた。</li> </ul>			

## ★発表評価シート★

1. 他のグループの発表をしっかりと聞いてそれぞれの項目を評価してください。

(Group Name: )

	評価項目	達成度 4 Very good 3 Good 2 OK 1 Not good
1	Volume	4・3・2・1
2	Speed	4・3・2・1
3	Gesture	4・3・2・1
4	Eye Contact	4・3・2・1
5	Smile	4・3・2・1
6	Memorization	4・3・2・1
7	Q&A	4・3・2・1

Comments

---



---

(Group Name: )

	評価項目	達成度 4 Very good 3 Good 2 OK 1 Not good
1	Volume	4・3・2・1
2	Speed	4・3・2・1
3	Gesture	4・3・2・1
4	Eye Contact	4・3・2・1
5	Smile	4・3・2・1
6	Memorization	4・3・2・1
7	Q&A	4・3・2・1

Comments

---



---

(Group Name: )

	評価項目	達成度 4 Very good 3 Good 2 OK 1 Not good
1	Volume	4・3・2・1
2	Speed	4・3・2・1
3	Gesture	4・3・2・1
4	Eye Contact	4・3・2・1
5	Smile	4・3・2・1
6	Memorization	4・3・2・1
7	Q&A	4・3・2・1

Comments

---

---

(Group Name: )

	評価項目	達成度 4 Very good 3 Good 2 OK 1 Not good
1	Volume	4・3・2・1
2	Speed	4・3・2・1
3	Gesture	4・3・2・1
4	Eye Contact	4・3・2・1
5	Smile	4・3・2・1
6	Memorization	4・3・2・1
7	Q&A	4・3・2・1

Comments

---

---

## ★振り返りシート★

1. 自分のグループの発表を振り返りましょう。

	評価項目	達成度 4 Very good 3 Good 2 OK 1 Not good
1	Volume	4・3・2・1
2	Speed	4・3・2・1
3	Gesture	4・3・2・1
4	Eye Contact	4・3・2・1
5	Smile	4・3・2・1
6	Memorization	4・3・2・1
7	Q&A	4・3・2・1

2. 他のグループの発表を聞いて学んだこと、考えたことを書きましょう。

---



---



---



---

3. SDGsの目標を達成するためにあなたが日々の生活の中で実践したいことを want to、try to、need to などを使って2文以上書いてみましょう。

---



---



---



---